

ORIENTEERING JAPAN

94/11

O JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

1994年〔平成6年〕11月10日発行

(毎月1回10日発行)

第11巻第11号通巻第136号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可

生物保護区のため
立入り、動・植物
の採取を禁止します
横浜市



リゾートパーク・オニコウベ

ONIKOUBE

ALL CONTR

宮城県玉造郡鳴子町

第2回

日本学生ショートホリエンターリング選手権大会

平成6年10月9日(日)

緊急電話 TEL 0229(86)2111(代)

立入禁止区域

縮尺 1:10,000

等高線間隔 5m

HE-FC, DE-FC			
▶	↳	70x100	
1 227	↘		
2 216	△		◁
3 221	△		◁
4 220	△		∧
5 224	↗		↖
6 217	∪	2x2	
7 223	↳		
8 888	∩		

80



地図記号

- 主要道路
- 駐車場
- 道路
- 道
- 小道
- 小径
- 切り開き
- 廃道
- リフト、リフト支柱

- せき(大、小)
- 石碑、墓、墓地
- 建物、ビニールハウス
- 岩、照明塔
- 通行不能のかけ
- 通行可能の土がけ、岩がけ
- 植生界
- フェンス(通行不可、可)
- 小凹地、凹地

- 穴、きれつ
- みぞ、こぶ
- 土壁
- 池、湧水点
- 川(渡河不可、可)
- 季節的水路
- 湿地、井戸
- 細い湿地
- 独立樹、クリアリング

- 民家の敷地
- 開けた土地(牧草地)
- 荒地
- 植林地・セミオー
- 走行可能
- 通行可能
- 通行困難
- 笹・倒木による走行
- 耕作地(田・畑)



■今月の表紙：

生物保護区のため立入り、
動・植物の採取を禁止し
ます。 横浜市

編集者のトレーニング・コースの一部でもある市管理の自然公園。今は木の葉も黄・赤に染まり、晩秋の休日の朝、絶好の散歩道となる。地形も変化があり、狭いがきれいな林もある。日本のOL草創期に第一回の県民大会が開かれ、編集者はその運営を手伝った。最近では編集者が謄写版で地図を作り、自治会の大会のコースの一部として4～5回程ここを使っていた。しかし、完全に「自然公園」として整備された今、ここをオリエンテーリングに使用することはできない。自然保護が優先されるからである。それでよいと思う。

■今月の地図：

「第2回日本学生ショートオリエンテーリング選手権大会＝ショートインカレ」（平成6年10月9日、宮城県鳴子町）の使用地図。コントロール・コード一覧は付録の「オリエンテーリング・カレンダー」裏に。

提供：日本学生オリエンテーリング連盟



＝ I O F NEWS ＝

・オリンピック参加への努力続く

訳：編集責任者・田口 肇 … 4

＝ SQUAD REPORT ＝

・冬のSQUADジュニア合宿

報告：桐田 幸宏 … 5

＝ 連載 ＝

・大会運営学「大会を開き、育てる法」

第5回 記録と反省

早大OC寿会 池ヶ谷 悦明 … 6-9

＝ オリエンティアのための Medical Advice ＝

・⑥ Veterans World Cup あれこれ [その2]

OLCレオ：愛場 庸雅 … 10-11

＝ オリエンティアのための本棚 ＝

・第13回：大江健三郎著「キルプの軍団」岩波書店

文：村越 真/カット：早川 喜代美 … 12

＝ 全国PC愛好会のページ ＝

・パーマネントコース りぼ〜と

富田 徹，木佐木 輝雄，情報提供：水野 博司 … 13-15

＝ 資料 ＝

・クラブ購読 [登録] 一覧 (I)

… 16-18

＝ お知らせのページ ＝

・PC情報 ・編集部より

… 20



--- STREAMER ---

先月、「受入れ準備を急ごう」と結んだが、次ページの“IOF News”をお読みいただければ、その意図するところをご理解願えると思う。IOF（国際オリエンテーリング連盟）の各委員会は協力者の数を大幅にアップさせて、すでに活動を始めた。日本もこの6つのワーキング・グループはぜひ欲しいが、これに加えて「広報」「国際」「トリム0」の各委員会の設置も望まれる。多種のワーキング・グループ、そしてできるだけ全国的に、地域的な偏りのない人々の協力を得ながら事を進めるべきである。日本オリエンテーリング協会の唯一の「競技」委員会（他に「普及」があるらしいが活動の状況はわからない）、現在「選手登録制度」なるものを検討中らしい。原案を読ませていただくと、やはり「登録料目当て」の匂いが強い。「公認指導員」登録が減じた分、今度は「選手」登録で…ということか。いったい登録した者にどれほどの見返りがあるのか…「公認指導員」登録の例から見て甚だ疑問である。「選手」ではなくて、「オリエンティア登録制度＝会員登録」はどうか。本誌 91/1 の拙稿「90年代のオリエンテーリング・運営機構を充実させよう」で、そのような案を発表させていただいた。スペースがあれば、その内もう一度具体案をと考えている。皆さんもどうぞ。

流人

I O F NEWS



From "IOF HEADLINES" 3/1994
Translated by: Hajime Taguchi, O-JAPAN

本誌94/9でお知らせしたように、7月に開かれたIOF総会で組織された6つの運営委員会ワーキング・グループには、既に10か国から20数人の協力者が加わり、早くも活発に動き出した。最終的にはトータルで40人ほどのメンバーが予定さ

れており、残りの3分の1は11月いっぱいには確定する見込み。

この号では各委員会がどのようなプロジェクトを進めようとしているかを、「IOF HEADLINES」最新号からご紹介しよう。

編集責任者：田口 肇

オリンピック参加への努力続く

IOF委員会はこのスポーツのオリンピック参加への扉の把手を、確かな手ごたえで握ろうとしている。

スキーO委員会が、2002年参加の申請を考慮しており、最も詳細なプランと手元に近い目標を持っている。

しかし普及委員会もまた、現在の状況を調査しIOC（国際オリンピック委員会）の要求に見合うようなプランを提出することによる夏季オリンピックへの地歩を固めようとしている。

普及委員会

普及委員会（DC）はスタートすべきいくつかの企画を報告してきた。

- 新旧のIOF加盟国に加えて未加盟の各国においての普及の可能性の分析をするためにプロジェクト・チームが選任されることになるだろう。結果としてはDCは、オリエンテーリングを世界中に広めるために、将来的なIOFの援助プランの基礎として75の国々の「普及計画リスト」の作成を提案するようである。この数字はもちろん最近のIOCが示している夏季オリンピックへの最低限の参加条件に関連しているものである。
- オリエンテーリングをメディアや観衆により親しみ易いものにする方法を開発する努力が為されるであろう。
- オリエンテーリング普及を目的として（地域的に分けて）5つのプロジェクト・チームが新旧の加盟国をとり入れた形で発足するであろう。それぞれのチームは次の地域の一つを受け持つことになるであろう。すなわち、アジア、南米、アフリカ、東欧と以前のソヴィエト連邦各国、西欧と北米の5つの地域である。
- 後援するための（普及用）冊子を作る。
- 1995年のオーリング5日間大会において講習会に関しての討論が始まった。テーマはヴァルナでの総会で決められたいくつかの目標が基本となるであろう。

イヴェント委員会

イヴェント委員会（EC）は現在ワールドカップの新しい形式の開発のために多くの努力と時間を割いている。

最初のミーティングは、9月30日にチェコのイーチンにおけるワールドカップ最終戦の時に開かれた。その時の目的は特にエリート・ランナーやコーチたちのいろいろな意見を聴くことであった。

ECもまた加盟国のエリートやそのエリートが活動するために、信頼できる、より組織的な連絡方法を確立させたいとしている。

地図委員会

地図委員会（MC）は"ORIENTEERING WORLD"誌の次の各号（11月号と1月号）に載せられるであろう地図作成に関する2つの論説をまとめた。トレーニングと指導法に対して扱われるであろう。

- 地図作成講習会が、11月にリトアニア、そして南アフリカ（期日未定）で開催される。
- 地図作成指導者の研修会を1995年に開催。（開催地は未定）
- 新しい指導用道具が作られることになる。

スキーO委員会

スキーOの議事日程のかなりの部分がオリンピック・プロジェクトに集中している。広範なリポートが"ORIENTEERING WORLD"誌（No.5/94）に載せられている。

- クリニックがスウェーデン、エストニア、そしてアジア（日本、中国、韓国）で開催される予定。
- スキーOを促進し実施する国の数の増加を図って、スキーOの技術的援助が中国、日本、韓国、オーストラリア、そしてニュージーランドに与えられる。
- 国際イヴェント（ワールドカップや世界選手権）およびコースセッターのための新しいガイドラインが確立されるであろう。

技術委員会

技術委員会（TC）はECと共にその2つの委員会の役割をより詳細かつ明確にする作業から始まった。TCにとっての最初の仕事は、

- IOFコントローラー研修会のためのプログラムづくりとその研修会の指導運営。
 - コントローラーの認可システムを、そのシステムの信憑性が保証できるような見直す。
 - 新しい調和のとれたIOF規則の適用の監視。
 - ECとの緊密な協力のもとに、ワールドカップの資格や実験的な方式のような問題について検討し作業を進める。
- なお、高度技術の問題については、「ハイテク・グループ」を組織し、そこで扱われる。

トレイルO委員会

トレイルO委員会はトレイルOを未開発国に広げる努力を続けているが、当初の計画は次のようなものである。

- エストニアおよびスイス/オーストリアで講習会、ブラジルでデモ競技会、欧州パラリンピックへの促進を行なう。また1996年にはアジアへの展開の可能性について検討する（例：香港、日本および韓国）。

IOC総会に参加

IOFのスーパー・ハヴェイ会長とレナルト・レヴィン事務局長は、8月末にパリで開かれた、「統一総会」と銘打たれた国際オリンピック委員会（IOC）百年祭総会に参加した（"ORIENTEERING WORLD" 1994 No.5にそのリポートがあるので次号にご紹介する）。

また、レヴィン氏は10月初めにIOC本部を訪ね、サラマンチ氏およびIOFが所属している公認国際スポーツ連盟の実行委員会との間での会合を持った。この機会では、1995年3月2～4日にフィンランドのサヴォンリンナで開かれるスキーOのワールドカップへサラマンチ氏をIOFが招待することにまで話が進展した。スキーOは2002年の冬季オリンピックのプログラム上に載せることを目的として、既にIOFからその申請がなされているが、このIOC会長の招待の目的は、四半世紀に近いスキーO競技会を理解してもらう機会をつくることである。



"IOF HEADLINES" 3/1994 訳：田口 肇

SQUAD REPORT

年末・年始にかけSQUAD主催の2つの合宿が開催される。やる気のある皆さんには、積極的な参加を期待いたします。

さて、本誌が発行されるころには、秋の3つの公認大会も終了し、筑波大大会ともあわせて、今年度のエリートポイントがかなり明瞭になっていることと思います。

ユニバーのケガから驚くべき回復力で復活した鹿島田選手と村越選手の対決。好調の続く富田選手の動向。宮川祐子選手の復活（東日本優勝）。西日本で同一コースのD21Eを抑

えた、D19-20Eの山口純子選手の活躍。学生として好調な、千葉・志村・金田選手の対決。などなど……。興味あるエリート選手の活躍ぶりは、来月号にて特集します。

WOC95の予備セレクションも開始されました。強化選手を含めエリート選手の動向には読者の皆さんにも注目と関心を。そして声援を送っていただきたいと思ひます。

おそらく今月号は、年内最後の発行となるでしょう。みなさま、よいお年を。

冬のSQUADジュニア合宿

- 主催：SQUAD、関東高校生オリエンテーリング連盟
- 期間：1994年12月25～27日（日・月・火）
- 場所：静岡県裾野市、富士市
- 宿舎：民宿 村山ジャンボ（TEL 0544-27-8438）
- コーチ：鹿島田浩二 ほか数名
- 対象：中学生、高校生、大学1年生でやる気のあるもの
- 人数：先着20名を予定中
- 集合：25日に行われる「関東インカレ団体戦」の大会会場
- 解散：27日の午後JR身延線「富士宮」駅（予定）
- 参加費：〔宿泊費@5000X2〕+〔地図代〕+α
- 地図：「須山」「ふじ」
- 問合せ先：関東高連幹事長 木保 知大（きまた ともひろ） 0424-86-4676（20：00～23：00）
関東高連渉外 加藤 良（かとう りょう） 0492-86-0583（20：00～22：00）
SQUAD Jr担当 佐藤 信彦（さとう のぶひこ） 045-985-1924（22：00～24：00）

*すでに申込期間は過ぎておりますので、申込方法は省略しました。参加希望者は、上記問い合わせ先へご相談ください。

第8回女子合宿

- 日時：1995年1月7日（土）～8日（日）
- 場所：静岡県富士宮市
- 宿舎：村山ジャンボ
- 参加資格：原則として大学2～4年の女子でEクラス、もしくはそれを目指す人。
- 問い合わせ先：金子しのぶ 0489-85-2414 or 0425-85-7808

強化選手新メンバー（追加指定）

女子Jr強化選手：植田佳子（広島大4年）

先月号ユニバーシアードの記事でもご紹介した、植田選手が新たに強化選手に指定されました。昨年度インカレ個人戦6位、ショートインカレでは一昨年の試行大会・昨年の第1回大会で入賞、先日の第2回大会でも7位と健闘しました。ユニバーの選手として初めての海外遠征もこなし、世界へ向けて大きくはばたこうとしております。

暖かいご声援をお願い申し上げます。

次号予告

今月号は、筆者激忙のため、たいへん手抜き原稿となってしまいました。ショートインカレの記事も次号へ回してしまつたことともに、深くおわびを申し上げます。

次号では右のような項目の記事を予定しております。どうぞご期待ください。

- エリートポイント中間報告
- WOC予備セレクション中間報告
- ワールドカップ・トピックス
- 強化選手人物紹介

SQUAD広報担当 桐田幸宏

大会運営学

— 大会を開き、育てる法 —

第5回 記録と反省

早大OC寿会 池ヶ谷悦朗

「巻き尺がない!」の影に潜むもの

「池ヶ谷さん、巻き尺持っていませんか?」
設営中の計算センターにスタートのチーフが駆け込んできた。平成5年の第15回早大OC大会(『赤根が峠』)の前日のことだ。

大会を開く時、私は文房具から工具に至るまで大抵のものを持って出掛ける。この時も2mの巻き尺なら持っていた。しかし、事情を尋ねると、歩測区間を測るための50mくらいの巻き尺を探しているという。さすがにそんなものは持っていない。結局、何人かで歩測して設営したらしい。

後で詳しく話を聞くと、その前年は、ある会員が持ち合わせていた50mの巻き尺を使っていたことがわかった。しかし、この年、彼から借りる手筈は整っていなかった。さらに困ったことに、これに気づいた時、彼は用事があったら出掛けてしまっていたのである。

私は考えた。これはただの事故だろうか? うっかりミスで済ませて良いのだろうか?

なぜ用意し忘れたのだろうか? 用意する備品を書き出してあれが足りたのではないか?

マニュアルには書いてなかったのか? なぜ当日のことしか書かれていないのだ!

去年はどうしたのだ? きちんと反省会はやったのだろうか? 引き継ぎは十分だったか?

私物を借りて急場をしのいだ事実が、なぜ放置されているのだ? 本来、備品として用意するなり、学校から借りるなりの手続きをするべきではないか?

巻き尺を用意できなかったこと自体は些細な問題である。しかし、この些細な問題の影には、早大OC大会の全体にかかわる問題、構造的な問題が隠れていた。小さな問題として片づけてはいけぬ。うわべだけの反省からは何も生まれては来ない。なぜそうなったのかを深く掘り下げていくことで問題の本質

を発見できる。そして、問題の本質がわかって初めて真に適切な対策が施せるのである。

そこで、私は第15回大会のチーフたちを集めて、ここに書いたような主旨を説明し、レポートの提出を求めたのである。

経験を蓄積しよう

チーフからは、その大会で発生した様々な問題や改善ノウハウが上がってきた。

ゴールを設置したいのに地元の少年野球チームが練習をしている。父兄のクルマもお構いなしに入ってきてテントの設営もままならない。ここで大会が開かれることについて、どうやら教頭先生からほとんど誰にも伝わっていなかったらしい。この経験から、会場交渉の際には、大会について関係者への周知を依頼することも大切であることを知った。

思えば、私たちが開いた第7回大会(『小櫃林道』)では、なんの心配もいらなかった。初めての会場交渉の日、教頭先生が機転を効かせてくれて、大会前日のママさんバレーの日程の変更を約束してくれた。私たちはラッキーだったのだ。大会の成功は好意や幸運のなせる技か?

また、レポートにはこんなことも書いてあった。

ゴールレーンの設営を始めると、鉄製の杭が錆びていて使い物にならないことが判明した。しかし、幸いなことに、この大会ではメイン会場として小学校、ゴール地点として中学校の2つの学校を借りていた。そこで小学校の方の杭を借りて無事レーンを作ることができた。大会の成功は偶然の賜物なのか? この経験から、会場を下見した際には学校の備品をチェックせよ、という教訓を得た。

およそ大会運営には予期せぬできごとが付きものである。実際にそういう目に遭って初めてわかる部分があることは否めない。一方

で万事うまくいく場合もある。しかし、この第15回大会で起きたことをアンラッキーの一言で片づけてはいけぬ。事故だと決めつけることなく、どちらかと言えば悪い時をベースに考えていくべきだ。いろいろな経験を積むにつれてトラブルに対する適応力がつく。免疫ができるのである。

もう一つ例を挙げよう。

スタートで出欠チェックをする役員は参加者と向かい合って立っている。だから、参加者から見た右は役員から見れば左、左右は逆転する。レーンが参加者から見ればHE→DEの順に並んでいたとすると、役員から見ればDE→HEと並ぶ。つまり、この2レーンを担当する役員は、DE→HEの順に並んだスタートリストを持っていた方がチェックしやすいわけである。

実は、これもレポートで上がってきた反省点の一つである。スタート役員をやったことがない私は感心してしまった。経験がないと気がつかない。しかし、気になったのはOC大会15年の歴史の中で果たしてこの程度のノウハウがなかったのだろうか? という点である。毎年毎年失敗していた? — そんながはなからう。そこで、手元にある運営マニュアルを調べてみた。対象としたマニュアルは第6回大会以降のすべての早大OC大会と多摩OL白州2日間大会、第12回東大OLK大会のもの、原案を含む計14冊。これらに例示されている役員用スタートリストの並びがどのようになっているか、チェックしてみたのである。

調査の結果、これらの中に左右を逆転させた図を掲載していたものは1冊しかなかった。第7回大会(『小櫃林道』)のマニュアル案(桐田幸宏氏(スタート班サブチーフ)作成)である。H19Aが左、H21Aが右になっていた。念のために言っておくと、参加者側から見た別の図では左側が上位クラスになっ

ている。したがって、このさし絵は意識的に左右を逆転させたものと考えられる。しかし、残念ながら、その後のマニュアルでは、また元の誤った並びに戻ってしまっていた。

ところで、この程度のことは気づいて当然と思う方もあろう。それを言っても身も蓋もない。きっと実際には気がついて、ちゃんとしたリストを用意しているのだろう。先日の第17回筑波大会（『棚倉街道』）の役員もきちんと並べたリストを持っていた。しかし、気づくか気づかないかという議論より、マニュアル通りにやったらうまくいかないという事実、マニュアルにウソが書かれたまま放置されているという事実を重大視しなければならぬ。

経験しないと気がつかない。少なくとも、経験すれば誰にでもわかるような簡単なことだ。この時、経験を蓄積すれば良いのに、それをしないから一進一退の繰り返しとなる。きっと、オリエンテーリング界全体で見れば、おびただしい回数、同じ失敗を繰り返しているに違いない。どれだけのノウハウが忘れ去られているか計り知れない。

あらゆるノウハウを蓄積しよう。放置すれば忘れ去られることが必至なのだ。経験を確実にモノにしよう。そうすれば運不運や個人差の影響を最小限に抑えることができる。大会の成功を偶然から必然に近づけていくことができるのである。

データをとろう

私の在学中、オリエンテーリングにおける「ロスタイムは感覚の世界のものだった。私の友人にオーバーにロスタイムを言う者がいて「あいつのロスタイムを全部差し引いたらタイムがマイナスになってしまう。」などと言って笑ったものだ。

当時、レースに関するデータは、多くの場合、ただ1つ。スタートからゴールまでの所要時間があるだけだ。優勝者とのタイム差がどこでどう生じたものなのか、その過程はわからなかった。しかし、LAP30の登場により状況は一変する。誰もが手軽にラップタイムをとることができるようになった。詳細かつ客観的なデータを把握し比較することによって、レースの解析が大きく前進したのである。結果しかわからなかったブラックボッ

クスの中身が、データによって明らかになった。データをとることで、どこが悪いのかははっきりわかるようになったのである。

それだけではない。データを見て、初めてそこに問題があることに気づく場合さえある。自覚症状がないまま、好ましくない状態を引きずっていることは少なくないのである。

とっておきの資料をお見せしよう。表1は第11回筑波大会（『入四間』）の大会の際に私が実際に計測した、速報の所要時間に関するデータである。

この大会はペナチェックを後回しにすることで速報をいち早く出そうと試みた大会である。この試みには私も興味があった。ちょうどこのころ私は膝を痛めていて走れなかったため、ただ単に運営を見るために日に日立て出掛けていったのである。

調査の方法は簡単だ。ゴールレーンを眺めて早大OC関係者のゴール時刻をメモしておき、時おり速報板をチェックして彼らの速報が出たかどうかを見る。その繰り返しである。

結果は表1の通り、私が計測した範囲では30分を超えたケースはなかった。OC会員などに聞いてみても、ほとんど全員が「速報は速い」と答えた。成績表には速報の速さに関するアンケートの集計結果が出ていないのでわからないが、ペナチェック後回し方式の容認率も高く、運営者としては満足のいく結果であったに違いない。

しかし、である。表1の特に茅野、佐藤、山田の部分に注目して欲しい。ゴールした順序と速報が掲示された順序が狂っている。8分先にゴールした者の速報が、3分あとに掲示されたのである。このことは、とりも直さず、計算センター内の処理の流れに乱れがあったことを示している。速報の速さは評価できる。しかし、内部的な処理方法には反省すべき点があったはずなのである。しかし、今の運営者は、このことに気づかなかつたのではないだろうか。少なくとも私がOCの会報（平成元年1月号）でコメントするまでは。

このように、データがないと問題があること自体に気がつかない。問題だと思っていないから、当然、放ったらかしとなる。「知らぬが仏」ならぬ「知らぬが放っとけ」である。知らないことは恐ろしいことなのだ。

問題解決は問題を認識することから始まる。前向きにデータをとればとるほど問題点が浮

表1 第11回筑波大会の速報所要時間

氏名	所属	クラス	ゴール	掲示	所要時間
萩原	寿会	HB2	12:36	12:59	23分
井村	"	"	12:37	13:00	23分
白田	"	"	12:39	13:06	27分
小野	"	H21A	12:50	13:20	30分以下
松波	OC	D21A	13:02	13:25	23分以下
瀬尾	"	"	13:04	13:25	21分以下
西連寺	"	"	13:07	13:28	21分
近藤	"	DE	13:07	13:28	21分
愛甲	早実	H19A	13:09	13:35	26分以下
茅野	寿会	HE2	13:13	13:40	27分
佐藤	OC	"	13:16	13:36	20分
山田	"	"	13:21	13:37	16分
岡本	"	D21A	13:27	13:47	20分
宇田川	"	"	13:27	13:45	18分

*1) 第11回筑波大会当時の所属である。
*2) 速報板に既に表示されていたことを示す。

かび上がってくる。かたや気づいて直す者、気づかず放置したままの者——その差は広がる一方である。

ここで注意しなければならぬことがある。それは、データは必要になってから集めようと思っても手遅れだ、ということである。確かにデータの中には後から調べられるものもある。しかし、多くの場合、その時々記録しておかないと復元のしようがない。

たとえば、先ほどの例でいうと、計算センターで先入れ先出しが守られているかどうかを運営者自身が知るためには、成績処理システム自体に各参加者のデータを処理した時刻を記録する機能をあらかじめ作り込んでおくことが必要だ。そう、ラップタイムによる分析だって、ポストごとにボタンを押したからこそできることではないか。つまり、データをとるためには、前もって仕掛けを用意したり、本来的には必要のない動作をするなどの手間暇をかける必要がある。この手間暇は保険のようなものだ。場合によっては、後でたいへん重宝する。そこから得られるメリットはデメリットよりはるかに大きいのである。

どのようにして蓄積するか

スタートリストの並びの話、ゴール設営時のハブニングの話を通じて、経験から得られる、ちょっとしたノウハウの例を挙げてみた。こうしたちょっとしたノウハウは、いずれも今日の運営マニュアルには書かれていない。しかし、これらの例を少し詳しく見てみると、同じ「書かれていない」でも、微妙な違いがあることに気がつく。つまり、次の2つのケースに分けて考えることができそうである。

第1は、マニュアル化の範囲内でありながら、記述が漏れているというケースである。役員用スタートリストの並びの話は、これに当たる。

第2は、今日の運営マニュアルが、はなから対象外にしているために書かれていないというケースである。会場交渉時の不具合に起因するゴール設定時のハプニングの例などはこれに該当する。

そこで、それぞれのケースについて、どのようにしてノウハウを蓄積していったら良いか、考えていくことにしよう。

大会終えたらマニュアル書こう

今日の運営マニュアルには、もともと漏れがある。大会がなんとかうまくいっているのは、皆が機転を効かせ、そこに書かれた以上の働きをしているからにはかならない。だから、これから大会を開く人は既存のマニュアルをあまり信じない方がよい。少なくとも、相当疑ってかかるべきだ。現在のマニュアルには「行間」の作業、ニッチ作業がまだまだたくさんあるのである。

また、実際に大会を開催するとマニュアルの誤りが見つかる。先ほどの役員用スタートリストの話は、その一例だ。

しかしながら、こうしたマニュアルの漏れや誤りが改善されないのには、本当に驚かされる。遅々として進まない。ほとんど前回のものの丸写しだ。大会の開催で記述の過不足や誤りが一度は顕在化しながらも、見直しや反省を行わないために、再び潜伏してしまう。そして、後の世代はそこに不具合があることを知らずにコピーするから、不具合がそのまま「遺伝」してしまうのだ。早大OC大会では、パソコンを導入した第10回大会（『二子山』）以降、役員用のスタートリストにはふりがなが最初から印刷されているのに、運営マニュアルには「ふりがなを調べて書き込む」という旧態依然とした作業が、その後も2年間に渡って書かれていたのである。

さて、そこで提案である。

大会が終わったら、マニュアルを書こう。「書く」といっても最初から作り直すわけではない。赤ペンで修正を書き入れるのである。不要な部分があれば線で消す。誤りを修正する。不足は書き足す。個人がその場で効かせ

た機転を書き入れる。こうして記録しない限りクラブのノウハウにはなり得ない。

大会が終わったら、直後にやろう。記憶も鮮明なうちに行えば、より短期間でより多くの情報を書き加えることができるはずだ。それも苦痛に感じることなく。

ワープロは必要ない。手書きの方がはるかに良い。以前はどうだったのか、どこがどうまずくてどう直したのかが、一目でわかる。ワープロ化するのとは次のマニュアルを作る時で良い。その時もただ単に書き換えるだけではなく、経緯やエピソードを書いておいた方がよい。第11回奈良インカレのゴールのマニュアル（桐田幸宏チーフ）には、第8回早大OC大会（『深良財産区』）や第10回群馬インカレのゴールでのトラブル事例が記されている。第12回東大OLK大会のゴールのマニュアルにも過去の失敗事例が記されている。こうした過去の事例がゴールのマニュアルに出ていること自体、非常に興味深い。示唆に富んでいる。オランダの格言は言う。「海岸の難破船は、それ自体危険を示す標識である。」と。

こうして赤入れされたマニュアルは最高の報告書であり、次回に向けた最高のマニュアルである。こうしておけば、次の世代は次の一歩から踏み出すことができる。確実にステップアップすることができるのである。

記録から始めよう

さて、問題は現在マニュアル化されていない部分のノウハウをいかにして蓄積していくかである。

一部を細かく書くくらいなら大雑把でも全体を描けと言ったのが第2回だが、欲を言うなら全体を細かく書いたものもあった方がよい。そこで、マトリクス、ネットワーク図に続く第3の資料として「マニュアルカード」を考えた。事前や事後の作業については1枚1項目のカードしようではないかというものである。ここまでやれば完璧だろう。オリエンテーリングカレンダーの裏面に一例を示す。

しかし、これをすべての作業について作るのは、あまりに大変である。何百枚も作らなければならぬ。そこで、まずは記録を報告書としてまとめることから始めていこう。

報告書といっても、あらためて作る必要はない。あらためて文章を書こうとすると、本当にあらたまってしまう。抽象論になったり、ひどい場合にはただの感想文に墮してしまう。懐かしむために思い出をつづるのではない。使うための、活動の経過の記録である。

マニュアル調にする必要はない。役に立つか否かを吟味してしまうのも良くない。とりあえず、ありのままを書いておくのが良い。事実を書き並べるだけで良い。5W1Hが書かれていれば十分だ。「大会の約半年前になったら第一弾の予告を行う」と書くよりも、「昭和59年9月30日、埼玉大リレー大会において、開催予告ビラ500枚を配布」と書いた方がよい。そもそも、クラブの大会は開催時期が決まっているから、時期などは実際の日付の方が都合が良いのである。余談になるが、私が申込先を務めた第6回早大OC大会では申込締切は1月31日消印有効だった。それが第15回では12月25日消印有効になっている。開催期日は5日しか違わないのに、これはどうしたことか？

閑話休題

とにかく、情報はありのままが良い。フィクションよりノンフィクション、ドキュメンタリーが良いのだ。『小権林道』の大会の時、私は交渉の過程を実際の書類のコピーを交えてドキュメンタリータッチに描いた『アウト第7回早大OC大会』を会報に連載した。この連載が、当時久々に大会の開催を計画していた慶大OLCの参考になったという。一番強烈な迫力を持っているのは、事実そのものなのである。

1冊にまとめよう

さて、報告書以外にも大会に関する情報はいろいろな所に散在している。要綱、プログラム、成績表、マニュアル、会報、議事録、メモ、プリント——しかし、バラバラは良くない。これまでだって報告書を作ったことはあるはずだ。それなのに、1冊にまとまっていないためにマニュアルの方しか読まねず、改善されなかったとしたら、こんなに馬鹿らしい話はない。とにかく1冊にまとめよう。できればコピーか印刷して配布しよう。最初から報告書綴じ込み用として余計に印刷しておくとも良い。配らないと、自分の持っている

ものだけを見て判断してしまうから、やはりダメなのだ。情報の子孫繁栄、種の保存という意味で、配布の有効性は無視できない。

体裁はどうでも良い。プログラムがそのまま表紙で良いではないか。だいたい、報告書にしてもマニュアルにしても形にこだわり過ぎだ。それでいて、肝心な中身がお留守になっている。

さらに言えば、いかに作るかより、いかに使うか、いかに活かすかが重要である。報告書を作っても、活用されなければ意味がない。情報の死蔵である。実を言うと、最初に述べた第15回のチーフたちが書いてくれたレポートは、コピーして第16回のチーフに渡したのに、第17回のチーフは見たことがないなどと言っている。まったく困ったものだ。

ところで、この報告書の媒体は紙でも良いだろう。電子化して、キーワードによる検索や大会ごとや作業項目ごとの閲覧ができれば、などと考えるわけでもないが、実情は今述べた程度のものである。利用する側の意識という

インフラが、なにしろ一番立ち遅れている。蓄積方法を洗練するのは、利用者側の意識がもう少し向上してからでも良いかも知れない。

前向きに反省しよう

私は、大会のしめくりとして、評価工程というフェーズを設けた。ここでいう評価とは結果に対して行うものではない。過程に対して行うものだ。大会に点数をつけるような行為ではなく、開催のプロセスの善し悪しをチェックし、次回に向けてアクションを考える、見直しのフェーズである。

だいたい、今の大会は開きっぱなしである。終わったら「バンザイ！」で、おしまいだ。まさに「お開き」である。失敗したことを思いついたくない気持ちになる。結果オーライなんだから、いいじゃないかという声も聞こえてきそうだ。解放感も理解できる。

学生クラブには、自分たちの代の大会というのがある。中心的存在として運営するの

は4年間のうちでも、普通3年生の時の1回だけだ。それだけに思い入れも強くなるのだが、終わってしまうとすっかり解放感に浸ってしまう。

私はというと、多少例外的だったかも知れない。1年から4年まで一貫してプログラム編集に携わった。そんな経験から「今度こそ」「次は」と考えるクセがついたのだろう。

反省は後ろ向きの作業ではない。次回に向けた前向きで建設的な、創造的とさえ言えるプロセスなのである。改善の成果を見るのは楽しいものだ。時に万感胸に迫るものがあると言っても過言ではない。

記録し反省することによって、より良い大会を、より効率良く運営することができる。レベルダウンすることなく、確実にステップアップすることができる。回数を重ねるにつれて着実に良くなっていく大会はスムーズにシフトアップするクルマのようだ。

すべての大会がそうなることを願ってやまない。

事実こそ雄弁！新旧エピソードの数々

今回のテーマに関係ありそうなトピックスを新旧織りまぜて紹介しよう。

究極の記録、ビデオ

記録の中で最も生に近いものと言ったら、何といってもビデオであろう。今日、大相撲でも物言いの際には審判団はビデオ室と連絡を取りながら判断を下す。

平成に入った頃から、インカレをはじめとして、ゴール地点にビデオカメラを設置する大会も珍しくなくなってきた。

先日の東日本大会（『大雄の鉄人』）でも一部不明になってしまった着順の特定に、ビデオが決定的な役割を果たしたとのこと。ゼッケンを付けたランナーで不確定部分を絞り込み、さらに、あるランナーが役員にガッツポーズをしてゴールしたことにヒントを得て、ゴール担当の大学の交遊関係を補助的な情報として活用しながら、捜査(?)を進めていったそうだ。そして、最後に決め手となったのは「音声」だったという。

サンスーシの尾上秀雄氏は「ビデオが音声の録音機でもあることをもっと利用すべきです。ゴールはてんやわんやになりがちなので、音声のメモは便利。何か気づいたことがあれば怒鳴れば良いわけですから。」と言う。なるほど!! VTRはボイスレコーダーでもあったのだ。カメラがあさっての方向を向いていても、時刻と音声は記録される。今後VTRを使わない大会は時代遅れと言っても良いであろう。

千葉大の経験生きる「荒天中止」

私の手元に「成東OL大会のお知らせ」という1枚の葉書がある。表を見ると、なんと額面が20円だ。今では当たり前の「荒天中止」という表現を、私が初めて見たのがこの葉書だったように思う。新鮮な響きを感じた記憶がある。

この大会は、当初昭和54年10月7日に開催の予定だったが、大雨洪水警報が発令されたため延期になったのである。その延期の通知が、この葉書である。

それ以前は「雨天決行」一辺倒であった。

事実、その同じ日、大雨の中、ほど近い東金で京葉OLCが大会を執行している。

ちなみに「成東OL大会」とは、今でいう第2回千葉大大会のこと。まだまだマイナーだったためか、日程がバッティングしている。時代の流れを感じないでは、いられない。

不運の連続、千葉大大会

嵐（第2回）、狩猟がらみのテレイン変更（第5回）、停電事故（第6回）、ハチの大発生（第8回）——とにかく、千葉大大会は、ついていない。もしかしてもしかしたら狩猟とハチは回避できたかも知れないが、アンラッキーと言っても良いであろう。

めったにないことではあろうが、停電はすさまじい。どうなるかご存じだろうか？ — パソコンが使えない？ それくらい大した問題ではない。断水が一番こわい。トイレが使えないのである。電気ポンプで水を屋上のタンクまで汲み上げているためだ。これは半端じゃない。同大会の記念誌にも民家のトイレを借りて対応した事実が記されている。

こればかりは折るしかないか。

オリエンティアのための Medical Advice

OLCレオ 愛場 庸雅

⑥ Veterans World Cup あれこれ =その2=

・機内食

海外旅行の楽しみの一つに機内食があります。しかし、せまい座席にじっと座ったままで、これでもかとはばかりに出てくるのはうんざりすることもあり、体調をくずすともになりかねません。今回は英国航空の直行便を利用したのですが、機内食メニューにはわざわざ「脂肪と砂糖をひかえて作りました」とことわってありました。たしかに量的にも少なく、内容も豪華とは言えないのですが、これはこういった注釈をつければ納得するほど、欧米人の食事に対する意識が変化していることの現れでもあります。肉食中心の彼らの食事は決して良くないものだということが、徐々に、しかし確実に浸透してきつつあります。アメリカで1977年にマクガバン・レポートというのが報告されています。これは上院の栄養問題の特別委員会が当時の栄養学的知識を総動員し、数年にわたって大がかりな調査研究を行なったものですが、その結果出てきた結論は、「米国人は肉、砂糖、脂肪の消費量を減らし、穀物と野菜を中心とした食事にするべきである。」というものでした。しかも、最も理想的な食事はなんと戦前の日本人の食事である。」というのです。これは言うまでもなく、ごはん味噌汁、漬物に小魚といった食事を指します。これが最も Healthy な食事なのです。戦後の食糧難の反動で、それ以降、肉、油、砂糖をたっぷり使った料理が「ごちそう」で「栄養がある」と信じられてきました。「タンパク質が足りないよ」というコマーシャルが流れ、肉、卵、牛乳の消費が奨励されてきました。これが誤りであることは、日本における成人病の急激な増加からも今やもう明らかなのですが、今の日本人の普通の人の食生活はおそらく毎日が「ごちそう」の連続でしょう。それにもかかわらず、「私は激しいスポーツをしてい

るからタンパク質がたくさん必要である、従って肉を食べなければならない」と思い込んでいる人も多いようです。欧米人はその反省から日本食に目を向けつつあります。日本人はどうなのでしょう。「ごちそう」は、盆と正月とお祭りだけで十分なのではないでしょうか。

・石井氏の食事

「そんなことを言っただって現実には海外の肉食中心の生活になるのではないか。」という人も多いと思います。実際今回の宿(B&Bといわれるイギリスの民宿)で出される朝食は、穀物(シリアル)、ジュース、パンの他には、卵、ソーセージ、ベーコン、といった欧米の典型的なジャンクフード(カロリーばかり高くて本当の意味での栄養がない:ファーストフードやスナック菓子などが典型)でした。しかしそんな中で、栄養学的にみて割と良好な食事を摂っていたのは、同行された石井さんです。数多くの海外での大会の経験と、ランナーとしての厳しい自己規制から生まれたものと思いますが、海外遠征での食事を考える上でのモデルにもなると思います。その内容は

- (1) シリアル(ミューズリー:オート麦を中心に乾燥した穀物を混ぜたもの、オートブラン:小麦のふすま)を多く摂る。これに少しドライフルーツやナッツを混ぜる。
- (2) パンは食べない。
- (3) 牛乳またはヨーグルトを少量、果物ジュースは飲む。
- (4) 卵はゆでてもらうが、朝食時には食べずに弁当にしてしまう。
- (5) ベーコン、ソーセージは食べない。

大体こういう形でした。以下に少し解説をしてみます。まず原則は、穀物、特に未精製のものを選ぶ。消化の悪いものは食べない。肉、脂肪、砂糖は食べない。食べ過ぎないということです。まずシリ



アルですが、これが中心です。とくに胚芽からできるオールブランを摂るのはいいことです。ただこれだけだと消化が悪く、胃にこたえますので、ミューズリーと半々にするわけです。同じシリアルでもコーンフレークなどもあるのですが、これは砂糖がかかっている危険性が高いので避けます。次にパンですが、これは胚芽が入っているようなものであれば良いのですが、宿で出されたのは白パンでした。またパンを食べるとどうしてもバターやジャムをつけますので、これを避ける意味では賢明です。次に乳製品ですが、牛乳信仰否定論者の筆者としては別にすすめるわけではないのですが、同じ摂るならば朝食としては、消化の悪いチーズよりはヨーグルトの方がすぐれています。実際夕食にはチーズを食べておられました。但しこのヨーグルト、決して砂糖の入っている物であってはいけません。あくまでプレーンです。甘味がほしければ少しドライフルーツを足すぐらいにしておくべきです。同じことが卵についても言えます。走り終わった後ならば少々消化の悪い卵でも食べて良いのです。筆者はといえば、ゆで卵は走った後だとのどがつまりそうなので、スクランブルエッグにしてもらって朝食食べていましたが、油を使うことの多い目玉焼きよりは良いでしょう。ベーコン、ソーセージについてはもう言うまでもないでしょう。あとは宿が野菜をもう少し出してくれていたら申し分ないのですが、ぜいたくは言わないでおきましょう。要は食生活の条件が悪くても、工夫次第でなんとかなるということです。果物、ジュース、コーヒー、紅茶についてもいくつか問題はありますがまたの機会にしたいと思います。

・To a Haggis

スコットランドの伝統食に Haggis というものがあります。大会期間中に2回ほどいただきましたが、なかなかおいしいものでした。ガイドブックによれば、「巨大なソーセージのようなもので、スタミナがつきそう」と書いてありましたが、実際はライ麦などの穀物もかなり入っています。やはり伝統食は穀物の重要性を知っていました。現代の栄養学が研究すればするほど、各地の伝統料理がすぐれたものであることを証明しつつあります。「それならばヨーロッパの人々は肉食をして健康に生きてきたのに、肉が健康に悪いということは矛盾するのではないか」と考えられることと思います。たしかに彼らは日本人よりは肉を食します。しかし実際はヨーロッパの家庭料理はそれほど肉ばかりのものではなく、野菜、穀物を多く摂るといわれています。フランス料理のフルコースなどは彼らにとっての「ごちそう」であって、普段食べるものではないのです。同行の高橋氏は、車の中から景色を見て「ヒースがき

れいだけれど、畑がないね」と言っておられました。そうです、スコットランドの寒冷で厳しい気候は、穀物、野菜が十分とれないのです。そんな風土のなかで、何千年と生き延びてきた彼らの体にあった食物が彼らの伝統食なのです。これは彼らにとっての健康食ですが、決して日本人が毎日食べるべきものではありません。さらにもう一つ重要なのは、同じ肉を食べるにしても、「動物全体の生命を丸ごといただく」という考えが根底にあるということです。フランス料理では牛を食べるのに、脳からシッポの先まで料理に使います。沖縄では豚を食べますが、耳の軟骨料理まであります。そして丸ごと食べるほうが、栄養の偏りがなく、すぐれた食事であることがわかってきつつあります。健康的な食事の原則は、「その人の生まれた土地の、その季節にとれるものを食べる」と「生命体のなるべく全体を食べること」です。

しかし、もっと大切なことがあります。大会終了後のバンケットの時に Haggis が出たのですが、To a Haggis というタイトルの詞を書かれた紙が各テ

ーブルに配られました。そして Haggis が真ん中のテーブルに運ばれ、切り分けられる前に、スコットランドの風習に従って、司会者がこの詞を朗々と読み上げます。そして参加者もこれに唱和します。この詞がどういう意味なのかよくわかりませんでしたが、この風習は、彼らが何千年と生きてきた上で、彼らの命を支えてくれた食物に対する感謝と畏敬の現れだと思います。「どんなものを食べれば、強くなれるのか、早く走れるのか、疲れないのか」を考えることもたしかに大事でしょう。しかし、自分の生命を食物により維持することは、他の生命を奪って生きているのだという宿命を知り、どんなものであってもそのもの持っている命、それを作った人々のことを思いながら感謝していただく食事であることのほうが、よほど健康へつながる道だと思えます。

長い旅行記になってしまいました。食物の話をするときがないのですが、次はまた別の話にしましょう。

＜カナディアン航空/O-JAPANよりお知らせ＞

CANADA '95 ORIENTEERING FESTIVAL



1995年7月8～11日 SAGE STOMP 3-DAY＝カムループス
15～23日 INT'L 5-DAY＝エドモントン/カルガリー

WELCOME!

私も西部カナダのオリエンティアは、北米最高の風光のこの地に、世界中のオリエンティアの皆様が再びお越しくださるようお待ちしております。1990年のAPOCに参加された方々はきつとずなされることと思います。参加されなかった方々は、この1995年のエキサイトメントを逃してはなりません！ フェスティバルが行なわれる場所は、様々なタイプのテレインでのオリエンテーリングと、雄大なカナディアン・ロッキーの忘れられない思い出を結びつける機会を提供することでしょう。

以上はこの大会の要項の冒頭にある宣伝文ですが、そうです、カナダ西部としてはその1990年以来的のビッグなイベントが企画されました。当時は日本から120人のオリエンティアがエントリーし、隣国アメリカからの参加者数を上回るにぎやかさでした。

今回はAPOC兼ワールドカップといった公的な大会はありませんが、それなりにのんびりとした雰囲気でのオリエンテーリングの友達の出発の輪づくりができるのではないのでしょうか。

また、この大会は西部カナダ選手権、カナダ選手権(2日間)、同ショートディスタンス選手権が併催されることになっていますので、日本のこれからの「全日本大会」や国際複数日大会の企画運営への参考にもなります。

そして、何より『カナダの大自然』を満喫していただきたいのです。

編集者も同行、記事を書きます。

◇お問合せ/ O-JAPAN編集部＝20時～22時＝ または
仮申込みは◇ カナディアン航空 ☎03-3212-5811 (内線 252)
田口まで ◆このこと以外の要件での電話はご遠慮ください。

【旅行日程】＝予定(案)＝

◇Aコース 20日間

7月7日(金)～7月26日(火)

◇Bコース 15日間

7月12日(水)～7月26日(火)

部分的には鉄道での移動、ロッキーマウンテン国立公園の北部(ジャズ/周辺)、中・南部(コクワ 大氷河、レクレーズ、ル7、恐竜遺跡など)のそれぞれ1～2日間の観光、最後にバンクーバー市内観光を1日予定します。

【費用】

何とかAコース 35万円程度、Bコース 30万円程度には抑えたいと思いますが、参加人数等にもより未定です。宿泊のグレードによっては更にセーブが可能、また、航空券/エントリーの斡旋/手続きのみもOKです！

＜人数によってツアーを計画します。仮申込みをお早めに(仮申込書は カンパ裏に)＞

オリエンティアのための本棚



第13回：大江健三郎 「キルプの軍団」岩波書店

文：村越 真／カット：早川喜代美

ノーベル賞授賞決定を報じる新聞記事に、著者の大江自身が「物を書くことは悪魔を追い払うことと表現している」という記述があった。もしそれが彼の著作の特徴なら、新聞の「主な作品」に名前すら出てこないこの本こそ、彼の代表作としてふさわしいものだ。この本は、私立高校のオリエンテーリング部で主将を務めるOちゃん（モデルはいうまでもなく彼の次男桜麻君である）が、悪魔を追い払う過程を描く物語だからである。

ディッケンズの原書を一緒に読んでいる叔父さんの頼みで、主人公のOちゃんは叔父さんの知合いの女性「百恵さん」との連絡係を頼まれ、事件に巻き込まれる。その事件は殺人事件に発展するほどのものなのだったが、それ自体がOちゃんにとって恐怖だった訳ではない。主人公が小説の中で読むディッケンズを引用して、著者はこう書いている。「現実ならばやって来れば行ってしまいます。そして終わりがあります。しかし想像では、それはつねにやって来つつあり、決して過ぎ去ってしまわないのです。」

自分の余計な一言がその殺された原さんが助かる道を断ったことへの後悔、その償いとして命を奪われても文句が言えないことへの恐怖、事件の過程で叔父さんに何気なくしてしまった言葉によって、二人の間に決して和解が成立することは有り得ないという危惧、彼を次々と襲ってくる悪魔＝キルプの軍団は、彼の想像力の産物だったのだ。

僕は89年、スウェーデンの世界選手権遠征の時の暇つぶしの一冊にこの本を選んだ。そして主人公のOちゃんが、ディッケンズの小説に自分たちの現状を重ねたように、僕もまたOちゃんに自分のその時を重ね、共感を感じた。それは、僕自身が「悪魔を追い払う」過程にいたからなのだろう。87年の世界選手権で結果という悪魔にとりつかれた僕は不本意なレースを終えた。僕にとっても悪魔は自分自身の心の中にいた。それからの2年は後から考えてみれば、その悪魔を追い払うための時間だった。直前のトレーニングキャンプですら、僕は幻想の恐怖を作り出しそうになった。自分の心を知り、心理学の知識を生かし、オリエンテーリングの新たな楽しみを見つけだそうと努めた2年間の努力がなければ、87年と同じ結果が待っていた

だろう。だが、その時には悪魔が自分の想像力によってつくられたのだと気付くことができた。悪魔が人の心によって作り出されるなら、それを追い払うために必要なのは、「新しい人間になりたい、これまでの性格は変えたい」という強い思いなのだろう。

今でも僕の周りには悪魔がばっこしている。だが、今はそれを追い払う方法を知っている。大江健三郎にとって小説を書くことが悪魔を追い払うことであったように、僕にとってはオリエンテーリングを走ることが悪魔を追い払うことだったのだ。それは「走りなおしの日々」といってもよかった。

この本はいつか取り上げようとしておいたのだが「ノーベル賞に先を越されて」しまった。この小文を彼が「辞退する」心配もないだろうから、この期に乗じて紹介することにした。ところどころに登場するオリエンテーリングに関する描写は、ささやかなものだがオリエンティアのあなたを楽しませてくれるだろう。なおこの作品はOちゃんによると売れなくて返品が多かったという。



パーマネントコース



りぼへと

□1994年6月18日(土)
栃木県 No. 41 ~富田 94-8 ~
「大谷観音」

【距離】 10 km
【ポスト数】 10本 PC-0-MAP

大高亮氏から郵政省の補助金で整備されたときいたので行ってみた。宇都宮駅西口8番乗り場で「大谷」方面行き関東バス(8:30, 9:05, 9:20, 9:55, 10:25, 10:55 ...) に乗り「平和観音」下車。そのまま直進右折して「平和観音公園」へ入ると、マスターマップが目に入る。鮮明。マップはすぐ側の「観光案内所」(8:45から無休)にある。1991年7-12月の調査。ポストは以前と同じ場所にあるが、⑨以外は記号を変えて新しくなっている。②は「多気神社」、③④⑤は夏草が生い茂ると見つけにくくなる恐れがある。⑥は「赤川ダム」畔にある。すべて問題なし。

(観光案内所 ☎0286-52-4733)

□1994年8月6日(土)
岩手県 No. 1 ~富田 94-9 ~
「南昌山」

【距離】 10 km
【ポスト数】 10本 PC-0-MAP

JR東北本線「矢幅」駅下車。バスはなく、「煙山(岩手)」の「藤原酒店」(☎0196-97-4505)までタクシーで10分。マップはあるがマスターマップは分からない。コースは夏草生い茂り歩きにくい、蜂に用心することなどを当店の奥さんに注意された。近くの「菅林署煙山種苗場」正面前にマスターがあることを1989年に鹿野寿悦会員から聞いていたので行って見たら、掲示板は倒れてマスターはなかった。前に入手したマスターを頼りにスタートした。②から③へ向かいすぐ左折し、そのまま直進するとマップにない道になるから、右折してしいたけ畑へ入る。しかし道があやしくなったので、一旦引き返して北のバス道路を進んだ。③は小さい駐車場の北東端にある。④は丘の上。「矢巾温泉」を過ぎて「幣懸(ゆ

き)の滝」へ入り、「落石の危険につき立入り禁止」の立札を無視して少し進むと堰堤が見える所の左上に⑥がある。ここから上の道まで小径が通じているが、道からその小径の入口は分りづらい。⑧の北側は整地されており見づからなかった。鹿野氏も同様の指摘をされていたのであきらめた。⑩は道から10m西に入った所。「煙山ダム」をぐるりと回ると洋風の大きな建物が突然出現した。「バストラルバーデン」と名乗る温泉会館で入浴や食事ができる。帰りにタクシーを呼んだ。

(矢巾町民総合体育館 ☎0196-97-4646)

□1994年8月7日(日)
岩手県 No. 20 A・B・C
~富田 94-10 ~

「平庭高原」

【距離】 10 km
【ポスト数】 A 10本
B 5本
C 5本 PC-0-MAP

JR東北本線「盛岡」駅(7:10, 9:50, 11:55)または「沼宮内」駅(8:05, 10:45, 12:50)から、JRバス「久慈」行きで「平庭高原」下車。少し戻って「ウッディハウス」(月休 ☎0195-66-4099)にマップとマスターがある。もう一つの地区取扱所「サイドハウス千春」は3月31日以後は閉鎖されている。ポストは記号31から50まで20本あり、これらを組み合わせてコースNo. 20Aは10本10km, 20BとCは5本5kmと3コースある。ポストはすべて健在であった。首は合成樹脂製だが足は鉄棒なのでその腐蝕が心配だ。一部で夏草生い茂り、歩きにくい所があったが、大部分は遊歩道で歩きやすい。ポスト記号31から33までは美しい白樺林を通る。WCや水場も適所にある。時間があれば「ウッディハウス」の「炭の科学館」や「ワイン工場」を見学するとよい。

(葛巻町役場活性化対策室

☎0195-66-2111)

(山形村教育委員会 ☎0194-72-2111)

□1994年8月8日(月)
岩手県 No. 19 ~富田 94-11 ~
「盛岡市市北山」

【距離】 9 km
【ポスト数】 10本 PC-0-MAP

JR東北本線「盛岡」駅前のバス乗り場11番から「黒石野」経由「松園営業所」行きの県交運バスで「高松の池口」下車。少し戻り左折右折すると「盛岡ユースホステル」があり、ここに平成2年9月調査のマップとマスターがある。②は小公園の西端、③は「高松小学校」校門右、④は配水所工事のため不明、⑥は「愛宕山展望台」にあり、ここも道路工事中であったが、別の小径から登った。⑦近くに「郷土資料展示室」がある。⑨は「聖寿寺」で、このあと「南部家墓所」を通過して「高松の池」畔の⑩へ到達する。⑧は市街地だが、⑨は盛岡北山の静かな森林の中を歩く。

(盛岡ユースホステル ☎0196-62-2220)

□1994年10月21日(金)
愛知県 No. 19 ~富田 94-12 ~
「愛知こどもの国」

【距離】 5 km
【ポスト数】 12本 PC-0-MAP

JR東海道本線「蒲郡」で名鉄蒲郡線に乗り換えて「こどもの国」下車。案内板に従って徒歩7分の「愛知こどもの国」中央管理棟1階の「利用課」にマップとマスターがある。外にマスター掲示板はない。「こどもの国」は9時開園。年末年始のみ休園で、入場料は無料。園内多くの危険はないが、登り降りが案外多く、5kmにしては時間がかかった。⑥だけが道端に無く、林の中に入って探し回ったため、帽子や衣服が泥だらけになった。

(愛知こどもの国協会 ☎0563-62-4151)

リネカー

〒225 横浜市 磯野1-12-13-303

富田 徹



□1994年9月6日(火)
岐阜県 No.16 ~木佐木 94-6~
「関中池」

[距離] 10km
[ポスト数] 10本 PC・O-MAP

名鉄「新岐阜」駅から「美濃町・新関」行きで「新関」駅下車、徒歩40分。または、長良川鉄道「関」駅下車、徒歩40分。その他、バスの便もあるらしいので、「少年自然の家」に電話で訊けば親切に説明してくれる。私は「関」駅からタクシーで「少年自然の家」へ直行した。道を尋ねる時は「中池公園」または「関スポーツランド」、近くに行ってから「少年自然の家」と訊けばよいと思う。マップとマスターは「少年自然の家」にある。休館日は月曜日と祝日。このコースは一時休止になっていたが、平成5年頃再開された。マップは1:17500で調査は平成4年。従ってマップの精度は100%に近い。しかし、磁北線の傾斜が30度ほどあるのが気になる。

コースは岡30%、岡の麓40%、田畑30%ほどで、高低差は30mぐらい。通行困難な所はないが、やや草深い所が2か所ある。特に難解ポストはない。ポストは全部標準の大きさと鮮明。⑥の近くの山中に突然「平安閣」が出現したのはビックリ。大きな貯水池が3か所とも底を丸出しにして干上がっていたのが印象的であった。今年の夏は日本中猛暑の連続であったが、今日もその延長のような暑い一日であった。

ここの1:17500を見て、第2回全日本大会(埼玉県小川町)の時のマップが1:16667という珍しい縮尺であったことを思い出した。
(関市立少年自然の家 ☎0575-24-0214)

□1994年9月7日(水)
岐阜県 No.20 ~木佐木 94-7~
「ファミリーパーク」

[距離] 10km
[ポスト数] 10本 PC・O-MAP

JR「岐阜」駅または名鉄「新岐阜」駅下車。新岐阜バスターミナルから「武芸谷口」行き、または「ファミリーパーク」行きに乗り、終点下車(所要50分・650円)。そこから北へ約300mの



地図とコンパスを頼りに歩く参加者ら＝瑞浪市内で

瑞浪市は市制四十周年を記念して同市明町の市民公園周辺にオリエンテーリング用常設コース「瑞浪石コース」を開設し、体育の日(10月10日)オープン記念大会を開いた。

同市には「小里古城コース」があったが周囲の開発が進んで廃止され、市民の体力づくりに日本オリエンテーリング協会登録の新しいコースを設定し、「三ツ、五ツ、十ツ」コースの三種類で、市民公園内の市民体育館を発着点とし、付近の山

化石コース初歩き

演 瑞

生にチェックポイントを置いている。コース開きの記念大会には、三つのルートに瑞浪市内のスポーツ少年団から五十八チーム、一般の家族連れなど千九百五十人が参加、小中学生らおよそ五百五十人が歩き初めをした。

地図とコンパスを渡された各チームは一分間隔でスタート。参加者は少しでも早くチェックポイントを見つけておくと、要所で立ち止まったりは仲間と目印や方向を確認し合いながら、山道を進んでいた。同市は利用者のため発着点の市民体育館で地図とコンパスを無料貸し出す。

10月11日付「中日新聞」朝刊より

岐阜県オリエンテーリング協会

水野博司氏提供

所に「少年自然の家」がある。大きな建物が2棟あるが、手前は体育館で、少し離れて北側に建っているのが「少年自然の家」である。マップはそこにある。マスターはその建物と体育館の間の松の木の下にあり明瞭。「少年自然の家」の休館日は月曜日と第3日曜日。マップは1:20000で、調査は昭和63年、精度は96%以上。ポストは10本とも健在。標準の大きさと鮮明。

コースは山45%、山の麓40%、田畑15%で、標高差は120mぐらい。急な昇降を3回繰り返すので相当こたえる。特に⑦から尾根へ登る急坂は幼い子供には無理であろう。その傾斜は45度ぐらいかと思うが、体感としては60度以上であった。雨の直後は滑りやすく危険であろう。⑦から息を切らして尾根へたどり着いた時、必ず腰を下ろして5分ほど峰の風で頭を冷やすことをおすすめする。登り切って疲労困憊した頭でそのまま歩いて行くと、マップ上の南下する小径(マップ上には無い)へ入り込む可能性がある。特に難解ポストはない筈だが、

私は⑨が見つからなかった。「大智寺」の中や周辺を右往左往して⑨を探したが見当たらず。後日「少年自然の家」のPC担当の方に電話で⑨の存否を訊いてみた。担当の方はすぐ大智寺へ行き調査して、電話で詳細に説明してくれた。『⑨は大智寺内の鐘樓の横にありました。草に埋もれて見難かったので草刈りをしておきました。』という親切な返事に恐縮。紙上を借りて担当の方に深く感謝。

現地に行くまで「ファミリーパーク」という名称から、ほとんどが遊歩道や花園と想像していた。しかし実際は、相当手応えのあるコースであった。

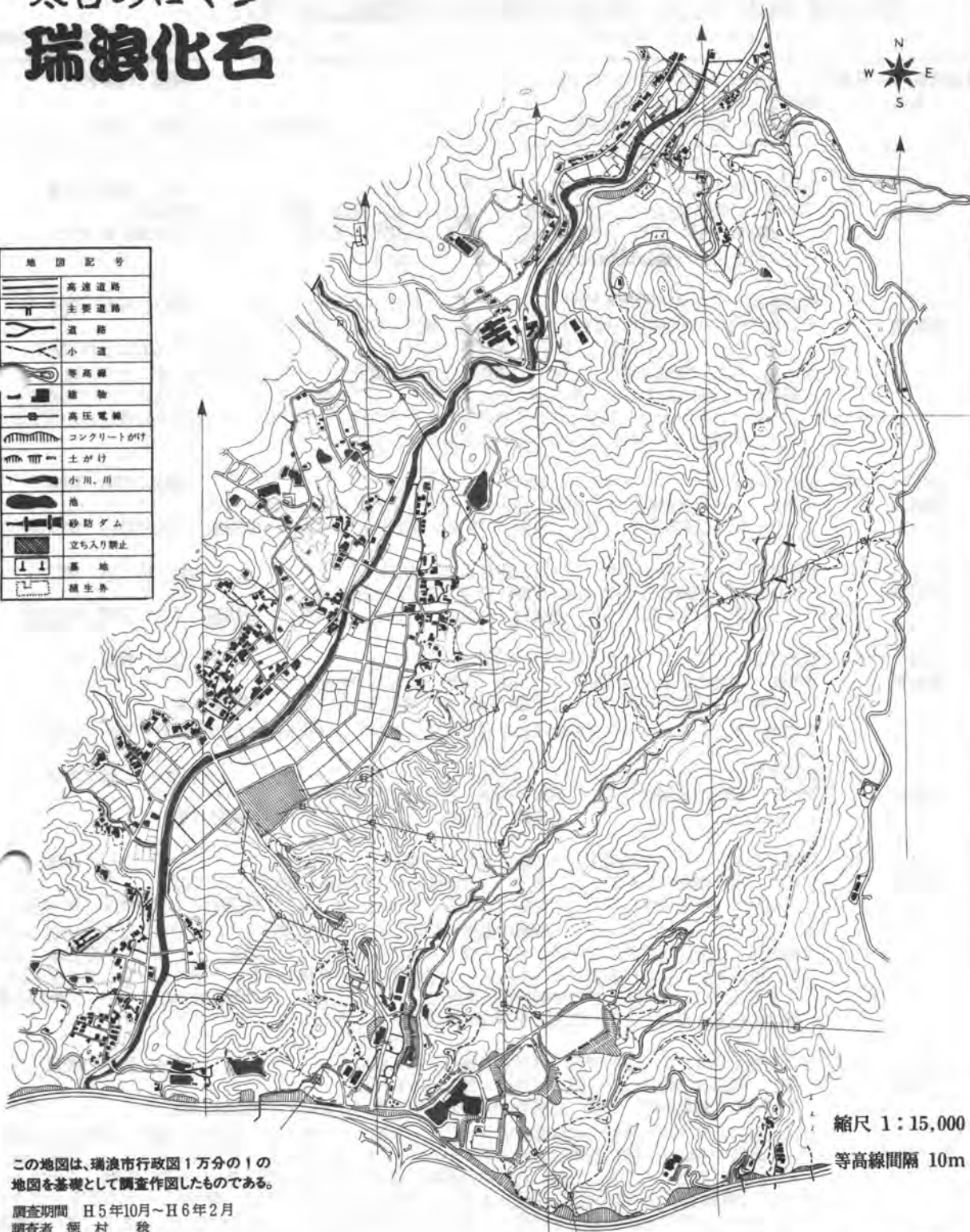
今日も暑い1日で、山の中では蝉が最後の声を張り上げていた。
(岐阜市少年自然の家 ☎0582-29-2888)

郵便:
〒185 国分寺市泉町3-5-6-104

木佐木 輝雄

太古のロマン 瑞浪化石

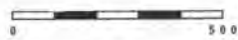
地図記号	
	高速道路
	主要道路
	道路
	小道
	等高線
	建物
	高压電線
	コンクリートがけ
	土がけ
	小川、川
	池
	砂防ダム
	立ち入り禁止
	基地
	境界



縮尺 1 : 15,000
等高線間隔 10m

この地図は、瑞浪市行政図1万分の1の地図を基礎として調査作図したものである。

調査期間 H5年10月～H6年2月
調査者 徳村 稔
作図者 徳村 稔
岐阜県オリエンテーリング協会



O-JAPAN クラブ購読 (登録) 一覧 (I)

平成6年8月現在

購読者番号 県名	県番号	正式クラブ名称 (略称クラブ名, アルファベット名) 事務局 (住所, 氏名, 電話) 創立年 (和暦) 月 会員数 (合計, 男, 女)	肩書 代表者名 機関紙 (有無, 名称, 回数)
2398 北海道	01	北海道大学オリエンテーリング部 (北大OLC, 記入丸) 〒001 札幌市北区北15条西四丁目1-2 夕汐シティ104 細淵 幸雄 ☎011-709-9216 1975年 (昭和50年) 4月 会員数 (42名, 男32名, 女10名) ☆日本最北の本格的なクラブです。	部長 細淵 幸雄 機関紙 (「PENA」年 8回)
2264 宮城県	04	宮城学院女子大学学友会オリエンテーリング部 (宮城学院OLC, MGOLC) 〒981 仙台市泉区虹の丘四丁目3-3 菊池 雅代 ☎022-374-2460 記入丸 会員数 (31名, 男0名, 女31名) ☆こんにちは, 宮城学院OLCです。私たちは普段は東北大OLCの皆と一緒に走ったり, 飲んだり, 騒いだり, 暴れたりしていますが, オリエンテーリングを愛する気持ちは, 邪念パワーにも負けません。いろいろな大会へ参加していますので, どうぞ仲良くしてください。ちなみに東北大以外では, 北大, 実践女子大と妙に気が合うという伝統があります。	部長 赤木 律子 機関紙 (「わかこ」年10回)
2407 宮城県	04	仙台オリエンテーリングクラブ (仙台OLC, 記入丸) 〒982 仙台市太白区八木山南四丁目2-4 三上 千香子 ☎022-245-8016 1975年 (昭和50年) 12月 会員数 (19名, 男15名, 女4名)	会長 菅原 輝男 機関紙 (「OL-ぬたい」年 7回位)
1710 秋田県	05	秋田オリエンテーリングクラブ (秋田OLC, AOLC) 〒010 秋田市茨島6丁目5-70 伊藤 良雄 ☎0188-62-8644 1987年 (昭和62年) 5月 会員数 (22名, 男17名, 女5名)	会長 佐々木 謹二 機関紙 (「てくてく通信」年12回)
2232 福島県	07	福島オリエンテーリングクラブ (フクシマオリ, FOC) 〒960 福島市北沢又字門前4-2 堀切 秀敏 ☎0245-58-8874 1982年 (昭和57年) 2月 会員数 (31名, 男29名, 女2名)	会長 福島 力 機関紙 (無)
	07	相双オリエンテーリングクラブ (記入丸) 〒975 原町市本陣前1-3-1 鶴崎 秀樹 ☎0244-22-5303 記入丸 会員数 (記入丸)	会長 二股 智亮 機関紙 (無)
2164 茨城県	08	茨城FOXテーリング倶楽部 (茨城ARDF, ARDF) 〒310 水戸市柳町1-4-27 MSS内 茨城FOXテーリング倶楽部 ☎0292-31-8302 1990年 (平成2年) 7月 会員数 (25名, 男20名, 女5名)	会長 池田 敏雄 機関紙 (「茨城ARDF」年 4回)
		☆「ARDF」とは, アマチュア無線の電波を利用した方向探査競技です。(詳しくは O-JAPAN 93/7 参照) 地図に記されていないポイントをラジオ片手に捜し当てる競技です。ARDF全日本, アジア, 世界大会の日本代表者を4人も抱えた, 倶楽部です。会員の半数以上がOLに楽しさを見つけ, ARDFとOLをうまく合わせ競技会に参加しているようです。この競技は特にアマチュア無線の資格は必要ありません。毎月練習会をしています。ぜひどうぞ!	
2231 茨城県	08	日立工機オリエンテーリング部 (日立工機OLK, KOKI) 〒312 勝田市泉町15-16 渡辺 啓司 ☎0292-74-3660 1985年 (昭和60年) 3月 会員数 (19名, 男17名, 女2名)	部長 鈴木 俊晴 機関紙 (無)
		☆私たちのクラブは, 会社の体育部会の一つとして活動しています。そのため, 20代~50代までと幅広い年齢層の部員と一緒に活動しています。そして, ここ数年やる気のある新人も入部し, 活動は盛り上がりつつあるところです。ただ, 女性の入部希望者が少ないのは残念です。活動内容は, クラブとして年に10回程度, 各地の大会に遠征します。その他, 2か月に1回は, 実戦トレーニングとしてクラブ内でゲレンデに出て練習会を行っており, 週1回皆でランニングを行なっています。また, 飲み会も定期的に行ないクラブ内の交流を図っています。今後は, 他のクラブとの合同練習なども積極的に行なっていきたいと思っております。	姉妹クラブ (国内に希望)

- 2227 10 かんら とみおか
群馬県 甘楽富岡オリエンテーリングクラブ (甘楽富岡OLC, KTOC) 会長 保坂 豊彦
〒370-23 富岡市別保163 松本 明 ☎0274-63-1435
1984年(昭和59年)10月 会員数(10名, 男9名, 女1名) 機関紙(「OL通信」年12回)
☆甘楽富岡地区は昭和40年代後半から50年代初期にかけて群馬県内でもOLの最も盛んな地域でした。昭和46年1月クラブ発足, 当時は大会やOL教室が頻りに開催されましたが, その後は沈滞, 消滅してしまいました。昭和59年10月現在のクラブを再建, 一昨年は10年ぶりに, この地区で県民OL大会が開催され, 更に今年も開催が決定しています。会員10名が活躍中。姉妹クラブ(国内に希望)
- 2467 11
埼玉県 大東文化大学オリエンテーリング同好会 (大東文化大OLK, DOLK) 会長 加藤 裕
〒350-02 坂戸市西坂戸3-27-15 加藤 裕 ☎0492-86-9323
1992年(平成4年)12月 会員数(13名, 男11名, 女2名) 機関紙(「む編ゆんちゅ」年15回)
☆結成してからもうすぐ2年になります。会員は楽しくOLをやっていて, とてもアットホームなサークルです。会報など欲しいという方, こんな私たちと友達になっていただける方, ぜひ大会会場で声をかけていただきたいものです。
- 2246 (13)
千葉県 千葉大学オリエンテーリング部 (千葉大OLC, CUOL) 部長 小泉 敦史
〒185 国分寺市西町2-2-206 山本 邦弘 ☎0425-76-2621
1975年(昭和50年) 会員数(129名, 男83名, 女46名) 機関紙(「Hiyo Silva」年32回)
☆私たち千葉大学オリエンテーリング部は, 12月18日(日)に千葉県大多喜町において, 第16回千葉大会を開きます。みなさん是非参加してください。
- 171 13
東京都 オールTBSオリエンテーリングクラブ (オールTBS, 記入丸) 会長 大川 光行
〒107-06 株東京放送内 オールTBSOLC事務局 山崎 英一郎 ☎03-3746-1111
1986年(昭和61年)12月 会員数(37名, 男24名, 女13名) 機関紙(無)
姉妹クラブ(国内外に希望)
- 708 13
東京都 麻布学園オリエンテーリング部 (麻布学園OLC, AOLC) 部長 前田 直毅
〒106 東京都港区元麻布二丁目3-29 麻布学園 朝エンテリグ部 ☎03-3446-6541
記入丸 会員数(44名, 男44名, 女0名) 機関紙(有, 不定, 不定期)
☆我が部は毎週月・水・金曜日を練習日とし, 校外のランニングとバレーコートでのバレーを楽しんでいます。部員のレベルは中高生としては高く, 今年3月のインターハイでは, 個人戦, 団体戦を共に制しました。
- 1109 13
東京都 小平市オリエンテーリング協会 (コライソエー, KOA) 会長 福原 信二
〒187 小平市小川西町4-28-2 北野 耕兵 ☎0423-41-2334
1987年(昭和62年)8月 会員数(13名, 男9名, 女4名) 機関紙(無)
☆小平市民に, ひろく分かり易いオリエンテーリングの普及を測るため, 市内の緑地現況(約40%)の経年変化が身近かにわかるよう, やさしい, 親しみやすいオリエンテーリングの普及に努めています。あわせて, 市民の体力向上に寄与するべく, 小平市内街並ウォッチングOAの普及を促進しています。
- 2210 13
東京都 国分寺高オリエンテーリング部 (国分寺高OLK, KOLK) 部長 渡辺 統史
〒187 小平市小川町1-972-2-111 渡辺 統史方 国分寺高OLK ☎0423-46-3086
1973年(昭和48年)4月 会員数(14名, 男13名, 女1名) 機関紙(「WALD LAND」年1回)
姉妹クラブ(都内に希望)
- 2213 13
東京都 東京オリエンテーリングクラブ (東京OLクラブ, TOLC) 理事長 高野 義次
〒177 東京都練馬区関町北3-38-3 斎藤 英津子 ☎03-3929-1715
1972年(昭和47年)10月 会員数(90名, 男名, 女名) 機関紙(「東京OLクラブニュース」年10回)
☆日本で初めてのクラブとして創立され, かつては活発に活動していましたが, 最近は沈滞気味。若いやる気のある方, すぐに運営スタッフになれます。
- 2225 13
東京都 保谷高校オリエンテーリング部 (保谷高OLC, HOLC) 部長 高田 三枝子
〒203 東久留米市八幡町3-14-33 高田 三枝子 ☎0424-73-2116
記入丸 会員数(5名, 男名, 女5名) 機関紙(無)
☆今, 我が部は危機に瀕しています。というのは, 今の部員全員が3年生で, 2年生も1年生もいないのです。う～ん, やばいなあ。というわけで, とにかく頑張りますんで, 応援をよろしく。

- 2228 13 早稲田大学オリエンテーリングクラブ (早大O.C., WUOC) 会長 平 俊文
東京都 〒169-50 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学第一学生会館内 学生課気付
早稲田大学初エントリクラブ
1976年(昭和51年) 9月 会員数(70名, 男35名, 女35名)
機関紙(「われ UNIV O.C.ボト」 年約10回)
- ☆われわれ早大O.C.は、学生クラブでも長い18年という歴史をもつクラブです。しかし近年のインカレでは、女子は見事な成績を残しているものの、男子は不運に見舞われています。現在、その雪辱を期して部員一同頑張っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
- 2229 13 東京工業大学オリエンテーリング部 (東工大O.L.T., 記入札) 部長 平山 純
東京都 〒152 東京都目黒区本町2-14-20 小坂 猛 ☎03-3794-5547
1980年(昭和55年) 4月 会員数(73名, 男70名, 女3名) 機関紙(「WING」年10回)
- ☆東工大O.L.T.は今年のインカレでH.E.9位になり、来年のインカレでは利光さんをコーチに迎え、入賞を狙っています。現在、赤丸急上昇中(?)のクラブです。来年(95年1月)には記念すべき第1回東工大大会を開催いたします。
- 2261 13 都立久留米高校オリエンテーリング同好会 (久留米高O.L.C., KHOL) 顧問 飯山 高明
東京都 〒203 東久留米市幸町5-8-46 ☎0424-71-2510
1990年(平成2年) 4月 会員数(0名, 男0名, 女0名) 機関紙(無)
姉妹クラブ(練馬O.L.C.)
- 13 東京農工大学オリエンテーリング部 (東京農工大O.L.C., TAUT) 部長 川合 康夫
東京都 〒183 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学 農学部学生会気付 ☎0423-64-3311
記入札 会員数(記入札) 機関紙(「帰って来たワザ」年9-10回)
- 177 14 港南オリエンテーリングクラブ (港南O.L.C., KOC) 会長 三好 良子
神奈川県 〒233 横浜市港南区港南台5-1-20-201 三好 良子方 ☎045-831-1714
1982年(昭和57年) 3月 会員数(19名, 男9名, 女10名) 機関紙(「ニュースタ」 随時)
- ☆港南区体育協会のO.L.部として発足しました。年1回、区民大会を開催すること、区の「さわやかウォーク」などの行事に協力しています。地域の弱小クラブです。
- 1080 14 横浜オリエンテーリングクラブ (横浜O.L.クラブ, 記入札) 会長 広瀬 一郎
神奈川県 〒246 横浜市瀬谷区三ツ境108-2 篠原 孝太郎 ☎045-391-2686
記入札 会員数(40名, 男35名, 女5名) 機関紙(「OL」年4回)
- ☆クラブ主催の大会開催、トレーニング、会報の発行、月例会等いろいろなイベントを計画実施しています。
- 1841 14 大井電気オリエンテーリングクラブ (大井電気O.L.C., OEC) 代表 鈴木 祥夫
神奈川県 〒222 横浜市港北区菊名7-3-16 大井電気株内 西沢 久夫 ☎045-433-3171
1976年(昭和51年) 4月 会員数(10名, 男10名, 女0名) 機関紙(無)
- ☆若手が伸びず停滞していましたが、今年有望な新人が入部しましたので今後が楽しみです。
- 1979 14 横浜国立大学オリエンテーリングクラブ (横浜国大O.L.C., 記入札) 部長 瀬藤 隆
神奈川県 〒240 横浜市保土ヶ谷区西谷町840-7-201 山口 孝志 ☎045-373-3471
1973年(昭和48年) 4月 会員数(82名 男60名, 女22名) 機関紙(「RunRun」年12回)
- ☆我がクラブは横浜国立大学と神奈川県立衛生短期大学の学生で構成されています。オリエンテーリングと遊びを両立して楽しく活動しています。
- 14 相模女子大学オリエンテーリングクラブ (相模女子大O.L.C., 記入札) 部長 阿見 優子
神奈川県 〒228 相模原市文京2-1-1
記入札 会員数(18名 男0名, 女18名) 機関紙(無)
姉妹クラブ(慶應大学 初エントリ同好会)

= 次号へ続く =

この地図は鳩子町発行の2万5千分の1行政図およびリゾートパーク・オニコウベ計画図を基に調査・作図したものである。

縮尺 1 : 10,000
等高線間隔 5m



日本学生オリエンテーリング連盟

調査期間 1993年8月～1994年7月
調査者 安斎秀樹^{1,2,3} 安斎 裕²
岩井路夫^{1,4} 菊池正昭^{1,2,4}
小山博史² 菅原善宏^{2,3}
須田 進³ 高島和宏^{1,2,4}
武石雄市² 松尾繁樹¹
山川克則³
調査協力 利光良平 元木 悟
作 図 山川克則³
調 製 R.M.O-サービス
印 刷 株式会社

ピッ!ハイテクOL GO

第3回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会へ

中京OC 小沢 保昭

O-JAPAN 94/8に西尾順一さんの「OLもペーパーレス?」がレポートされ、「技術立国・日本」にこうしたシステムが登場するのは、いつの日か…と叱咤とも、嘆息ともとれる言葉で括っておられました。私も昨年5月に TIRIS の紹介をして、三重の全日本でもPRに努めました。今のところマラソン用に開発されたものの転用ですが、発展生を秘めているものと期待しています。そして皆さんの力で外国に負けられないシステムに育つことを願っております。

その第一歩として、このたび関係各位の了承が得られましたので、愛知県瀬戸市で行なわれる第3回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会に TIRIS を使用することになりました。500名を超える運用は初めてのことで、参加者の皆さんに、よく

理解していただくためと運営の不慣れから来るミスを防ぐため、前日2月11日(土)14時から瀬戸市民会館で行なわれるテクニカルミーティング会場で実演をしながら説明します。必ず出席して下さいようお願いいたします。

できるだけ多くの方に参加していただき、良いこと、良くないことを批評して下さいることを楽しみに待っています。

応援・観戦なら、前夜ドリームとよた1号を利用して、瀬戸市下車・愛知環状鉄道に乗り換えても、ゆとりで間に合います。但し、食事する所はありません。

なお、要綱の入用な方は、表書きした返信用封筒に切手貼付して同封の上、(社)日本オリエンテーリング協会までお申し込み下さい。

地方新聞から

ボランテニア協議会
牧場ハイキング
秋の一日をエンジョム
「愛、ふれ愛、かたり
愛をテーマに桐生青年
会、桐生青年協議会
生南高校JRCなどをはじめ
多くのボランテニア団
体がそれぞれの得意技で協
力、当日の行事を盛り上げ
るようになった。

当日、参加者は西桐生駅
上電に乗り込み、今回の目
的のひとつである電車乗車
を体験しながら目的地へ向
かった。くろいんふらわ
牧場では場内を見学した
後、ボランテニア、一般参
加者、障害者が一掃になっ
て昼食をくり、ジャンケ
ンゲーム、オリエンテーリ
ングなどの催しを心ゆくま
で楽しんだ。



11月7日付「桐生タイムス」より

提供：「地図と森の会」藤生 晃三氏

PC情報

■パーマナントコース情報

(1) 岐阜県「瑞浪」

旧名「瑞浪古城」。一時休止になっていたが復活。本年10月10日にオープン記念大会。中央西線「瑞浪」駅下車、徒歩15分の市民体育館にマップとマスターマップがある。休館日は火曜日と祝日の翌日。

(瑞浪市役所体育課 ☎0572-68-0747)

(2) 東京都「三宅島」

現在マップを修正中。しかし、ポスト/コースともに完成、使用可能な状態になっている。マップは修正前のものを使う。マップとマスターは三宅村役場の観光課にある。

(三宅村役場観光課 ☎04994-6-1111)

1994・10・26

文責：〒185 国分寺市泉町 3-5-6-104

木佐木 輝雄

編集部より

◆体調の回復が思わしくなく、予定していた筑波大会等での取材もできず、今月の表紙写真はオリエンテーリングとは直接関係のないものとなってしまいました。しかし、私たちが今後最も真剣に取り組まなければならないのは、「選手登録」などより、「安全」や「Land Access = 他人の土地への立入り」の問題でしょう。参加人数との比率から見たら、このスポーツの事故率はかなり高いし、競技性を高めればさらに他人の土地の奥深く踏み込むことになるのだから…。高連の大会要項では日本では珍しく、参加申込み時に「誓約書」の提出が要求されている。O-JAPAN 様式も1月号あたりからこれを取り入れようと考えています。アメリカやカナダなど英語圏の国々では、これに厳しく、またホイッスルの携行の問題などよく議論されています。ご意見をお待ちします。

—流人—

O-JAPAN 発行人/田口 昭子

〒233 横浜市港南区日野南7-9-5

TEL.045-891-7004 FAX.045-891-2500

分室=Annex TEL.0287-77-1977

郵便振替口座/(番号)00270-9-46870 (加入者名)O-JAPAN 編集部

購読料

: '94.4月~'95.3月

: (高校生以下)

: 1部あたり頒布価格

: 編集責任者/田口 肇

: Chief Editor: Hajime Taguchi

: Editorial Address:

: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

: Yokohama, 233 Japan